

NK3の音楽性変遷

I…テクノフォーク期(1996～1998)

80年代の邦楽…いわゆるテクノポップに影響されて結成されたNK3だが、当初の音楽にはあまりそのような感じは出ておらず、むしろバラード系の曲を多く残している。ただ歌詞や一部の編曲技法には若干その影響を見て取ることができる。

テクノポップ的な曲作りを目指していたが、出来上がったモノは比較的万人受けするフォークソング的なものが多かった。また、ほとんどは未発表に終わったが「Self-Burning」のようなキワモノ系も結成当初は何曲か企画されており、これらの制作がうまく行っていたらNK3は現在とは違う方向に成長していたと考えられる。

この時期はまだ自分たちが意図する曲作りには到底たどり着いていなかったと言うのが正直なところであり、先のキワモノ系以外は3人の意思がうまく融合することもあまりなかった。

【このころの代表作】 Self-Burning, February Emotion, Pallarel World, 夏・春・歌, Last Moment

II…ビギナーズラック期(1998)

「ビギナーズラック」は当時ヨシハラが企画していたアルバムの名称。これは後に楽曲構成を変更して1998年末にアルバム「Emotional Intelligence」として発表される。

「Dreaming」,「Leave me alone!」あたりから、自分たちが影響を受けた音楽をうまく消化しつつNK3オリジナルの音楽性を持たせられるようになってくる。また編曲技法も凝り始めると同時に、自分たちの器以上の事は無理にせず、メロディーを重視したシンプルでメリハリのある構成の曲が多くなった。

曲作りのプロセスも[作詞]→[作曲]→[編曲]から、[作曲]→[作詞]→[編曲]という風に変化した。

【このころの代表作】 Dreaming, Leave me alone!, Endress sadness, Pig is liar!

III…サウンドエボリューション期(1998～1999)

1998年冬、NK3の更なる音楽的広がりを持たせるため、意図的にその音楽を斬新に進化させると公言して行われた「サウンドエボリューション」と名付けられたムーブメント。これは3人それぞれの音楽製作に対する意識改革を目指したモノであり、また80年代の邦楽にはない圧倒的なかっこよさを持った、80年代の洋楽に

強い衝撃と影響を受けたヨシハラの主導によるNK3改造だったと言える。

結果的にこの動きは成功を収め、テクノポップ的な現在のNK3サウンドの基礎が築かれて行った。またこの時期に発表した楽曲により、後述のゲーム音楽制作依頼が舞い込んでくる事になる。

結成初期に多かったバラード系の曲は1999年初頭に発表された「美しき思い出」を最後に鳴りを潜め、アップテンポで明るい楽曲が以後大半を占める。

【このころの代表作】 Astray City, NK3のMIDI実験室(仮), 美しき思い出

IV …依頼作品並行期(1999～2000)

この時期はもっともNK3が多忙で、もっとも楽曲制作にエネルギーを注いでいた頃だったのではないだろうか。1999年春に同人ゲームの音楽制作の依頼が入り、それをこなす傍ら、コンスタントにオリジナルの楽曲も制作していた。

依頼曲は歌詞や曲構成のアイデアを依頼主が出し、それらをNK3が自分達の解釈で消化し、楽曲として完成させると言うスタイルをとっていた。そのため、例えばサビが一番始めに来たり、バンド形態を意識した編曲など従来のNK3では考えられないような楽曲が多数生まれた。

また公開用(依頼曲は当時非公開だった)に制作したオリジナル楽曲も、依頼曲制作で得たノウハウやインスピレーションが活用され、1999年の終わりごろにはその集大成とも言える「SIGH」が完成している。その他には「オレたちの歌」などのいわゆる「キワモノ系」も久しぶりに制作される。

翌2000年には「SIGH」路線の延長のような80年代ユーロビートをモチーフとした楽曲を何曲も発表し、アルバム「HIGH-HIT-POTENTIAL」としてまとめられた。これら「BLUE」「FINE」「OVER」など一連の楽曲はすべて伴奏作り、つまりは編曲から行っていた。先の表現を用いれば[編曲]→[作曲]→[作詞]の流れで曲作りが行われたと言える。しかしその弊害として歌詞が軽視された傾向があり、作詞が行われずに次の作品作りに入ってしまった例がいくつか存在する。

【このころの代表作】 オレたちの歌, ランチョンマットで朝飯♪, SIGH, OVER

V …humanity期(2001～2002)

前述のアルバム「HIGH-HIT-POTENTIAL」において独自のテクノポップを確立したNK3が次に目指したのが、これに人間臭さ…「ヒューマニティー」を注ぎ込む事だった。

しかし、ヨシハラが名古屋を離れた事によりNK3は事実上活動停止状態になり、アルバム「humanity」は2001～2002年に制作されたいくつかの実験的な楽曲の寄せ集めになってしまった。

2001年初め、NK3の完全なオリジナルとしては最後に制作された「Feel Your Heart」「永遠の音」の2曲は「SIGH」路線の流れを汲んでおり、ある意味でNK3サウンドの到達点と言える。

【このころの代表作】 Feel Your Heart, 永遠の音, 心の故郷

VI …ソロ活動期(2002)

2002年4月にカタヲカ・ヨシハラによりNK3として約一年ぶりの楽曲「心の故郷」が制作されるが、その後は再び活動停止状態になる。

しばらくの沈黙を経て7月に突如ヨシハラが個人名義で「Atmosphere」を発表、その後約半年で10曲を矢継ぎ早に制作し(その内の何曲かは先行して公開)、アルバム「POP」を完成させる。

これはNK3再始動の可能性が無いと感じたヨシハラが、自分なりに「humanity」路線を継承して完成させたアルバムだった。従って個人名義とは言え、内容的には後期のNK3サウンドにかなり近いモノがある。

NK3名義の作品との違いは、完全に「アルバム」としての形態を意識して制作された事、当初の計画通りに全ての収録予定楽曲を制作した事、作曲・編曲を全てヨシハラが行った事、が挙げられる。

【このころの代表作】 Atmosphere, 24 hours, Pop

VII …開店休業期(2003～2005)

アルバム「POP」の発表後、2003年後半の完成を目指してヨシハラは次の個人名義アルバム「REPLAY」の制作に取りかかるが多忙により挫折。「POP」で目指した「普遍的なポップミュージック」をさらに追求したアルバムとなる予定だった。この頃はメンバー3人とも大学卒業→就職と言う様々な環境が変化する時期にあり、音楽制作に時間と気力を割ける状況ではなくなっていた。以降、約三年に渡ってNK3にとっての空白の時間が訪れる。

VIII …再始動期(2006～)

2006年10月、長い沈黙を破りヨシハラが個人名義で新曲「Blue Monday」を発表。その後2007年初めまでに「What is love?」、「Long time to see!」の二曲も追加で発表される。また、10月にはNK3としてはおよそ5年ぶりのアルバム「Ordinary World -NK3 CLASSIX2-」が完成しているが、これは純粋な新作ではなく、過去の楽曲のリミックスや未発表曲の収録がメインのアルバムであった。

しかし翌2008年、メンバー(イトヲ64)の結婚式のために楽曲を制作する企画が

持ち上がり、ついに誰も予想できなかった6年ぶりの新曲「あなたに今一番伝えたいこと」が発表される。この曲は最初にイトヲが歌詞を作り、それにヨシハラがメロディーを乗せ、3人で編曲する流れで制作された。

さらに2009年にはヨシハラが2006年から制作してきた楽曲をまとめた個人名義のアルバム「Isolation」を発表、模索段階ながらNK3時代とは違う新しいサウンドの方向性を提示した。